再評価結果（令和7年度事業継続箇所）

担　当　課：道路局　国道・技術課
担当課長名：西川　昌宏

事業名	一般国道42号　新宮紀宝道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局
起終点	自：三重県南牟婁郡紀宝町神内 至：和歌山県新宮市あけぼの			延長	2.4km

事業概要

一般国道42号は静岡県浜松市を起点とし、和歌山県和歌山市に至る総延長521kmの主要幹線道路であり、和歌山県の紀伊半島沿岸部をつなぐ唯一の国道として、産業、経済、生活を支える重要な役割を担っている。

一般国道42号すさみ串本道路、串本太地道路、新宮道路及び新宮紀宝道路は、紀伊半島を一周する高規格道路として、南海トラフ地震等の災害時の交通確保、救急医療活動の支援及び広域周遊観光の支援を目的とした自動車専用道路である。

H25年度事業化	H-年度都市計画決定 （H-年度変更）	H29年度用地着手	H29年度工事着手

全体事業費	500億円	事業進捗率 （令和6年3月末時点）	約91%	供用済延長	2.4 km

計画交通量	15,100台／日

費用対効果分析	B/C	EIRR	総費用 (残事業)/(事業全体)	総便益 (残事業)/(事業全体)	基準年
	（事業全体） 6.2(1.2) （参考）6.9(1.8)〔2%〕 （参考）7.5(2.2)〔1%〕 （残事業） 2.1(22.6) （参考）3.0(25.9)〔2%〕 （参考）3.7(27.7)〔1%〕	（事業全体） 27.3(5.2%) 9.1 (82845.1%)	3,748/ 58,079億円 事　業　費：3,342/46,436億円 維持管理費：　402/8,971億円 更　新　費：　3.9/2,672億円	7,784/ 357,190億円 走行時間短縮便益：7,180/ 322,973億円 走行経費減少便益：511/ 29,560億円 交通事故減少便益：　93/ 4,657億円	令和6年

	（事業全体）			
交通量	B/C=5.5～6.8（±10%）	交通量	B/C=1.9～2.3（±10%）	
事業費	B/C=6.1～6.2（±10%）	事業費	B/C=1.9～2.3（±10%）	
事業期間	B/C=6.2～6.2（±20%）	事業期間	B/C=2.0～2.3（±20%）	

事業の効果等

①災害時の交通確保
・南海トラフ巨大地震に伴う津波により、すさみ串本道路、串本太地道路に並行する国道42号の約8割、新宮道路・新宮紀宝道路に並行する県道紀宝川瀬線の約4割の区間が浸水すると予測。
・近畿自動車道紀勢線は津波に対して十分な高さを確保した計画路線であり、大規模災害時における緊急輸送道路や一時的な避難場所として活用するために避難路を設置することで、地域の避難活動を支援。

②救急医療活動の支援
・新宮道路と新宮紀宝道路の整備による時間短縮により、地域医療の核である新宮市立医療センターと紀南病院（三重県御浜町）とで実施されている県境を越えた地域医療連携サービスがさらに向上。
・災害時においても広域的な救急活動支援を期待。

③広域周遊観光の支援
・近畿自動車道紀勢線の整備により、沿線市町の観光客数が大きく増加。
・未整備区間を整備することにより、和歌山県・三重県の豊富な観光資源を活かした広域周遊観光を支援。

関係する地方公共団体等の意見
地域から頂いた主な意見等：
・令和4年12月に近畿自動車道紀勢線 すさみ・那智勝浦間 建設促進協議会（串本町、すさみ町、太地町、古座川町、那智勝浦町の各首長、議会議長、他）から、すさみ串本道路、串本太地道路の早期完成にむけた事業促進等の要望を受けている。
・令和4年10月に高速道路をつなぐ建設促進那智勝浦協議会（那智勝浦町内の民間団体など関係24団体）から、串本太地道路の一日も早く完成させるよう要望を受けている。
・令和6年7月に熊野川河口に橋を架ける会（新宮市、紀宝町の各首長、熊野川河口大橋建設促進議員連盟

の議員、他）から、事業中区間の早期工事着手と早期完成等及びそれに必要な予算確保等の要望を受けている。
・令和6年7月に高速自動車道紀南延長促進協議会（和歌山県知事、和歌山県議会議長、御坊市以南沿線自治体首長及び議長、他）から、総会での決議を踏まえ、事業中区間の早期工事着手と早期完成等及びそれに必要な予算確保等の要望を受けている。
・令和6年10月に近畿自動車道紀勢線（熊野市～新宮市間）建設促進期成同盟会（紀宝町、熊野市、御浜町、新宮市、田辺市、那智勝浦町、北山村の各首長、他）から、事業中区間の早期工事着手と早期完成等及びそれに必要な予算確保等の要望を受けている。
・令和6年11月に近畿自動車道紀勢線建設促進協議会（和歌山県知事、三重県知事、他）から、すさみ串本道路、串本太地道路、新宮道路の早期完成を目指しての整備加速等の要望を受けている。

和歌山県知事の意見：一般国道42号すさみ串本道路・串本太地道路・新宮道路・新宮紀宝道路

半島地域の発展や切迫する南海トラフ地震をはじめとする大規模災害への備えなど、安全・安心の前提となる「半島防災」の観点から、紀伊半島を一周する近畿自動車道紀勢線等の整備が急務であること、また昨今の資材価格や労務費の高騰、厳しい地質条件等を踏まえ、事業費の増加は、やむを得ないものと考えますので、対応方針（原案）のとおり事業継続が妥当と判断します。

なお、今後の事業実施に当たっては、コスト縮減に努めて頂き、「すさみ串本道路」の工事工程管理の徹底による1日も早い開通と、「串本太地道路」「新宮道路」の早期開通をお願いします。

三重県知事の意見：一般国同４２号新宮紀宝道路

一般国道42号新宮紀宝道路は、広域的な交流・連携の促進を支えるとともに、近年頻発化・激甚化する台風・豪雨災害や、発生が危惧される南海トラフ地震による津波発生時において、現道（国道42号）とのダブルネットワークを形成し、災害時の救助・救急、医療活動を支える「命の道」となる重要な道路です。

特に、紀南病院（三重県御浜町）から新宮市立医療センターまでの搬送時間短縮により救急医療活動を支える極めて重要な道路となります。今後も引き続き、当県と十分な調整をしていただき、紀伊半島一周高速道路の早期実現に向けた事業の確実な推進をお願いいたします。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、「一般国道42号新宮紀宝道路」の再評価は、当委員会に提出された資料、説明の範囲において、おおむね適切であり、対応方針(原案)のとおり「事業継続」することが妥当と判断される。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

新宮紀宝道路周辺地域の人口、世帯数及び自動車保有台数は微減傾向にあるものの、事業採択時からの社会経済情勢の大きな変化はない。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成25年度事業化、用地進捗率100%、事業進捗率約91%（令和6年3月末時点）
令和6年12月7日　新宮紀宝道路全線開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

事業実施にあたり、新技術・新工法の採用等によりコスト縮減に努める。

施設の構造や工法の変更等

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

対応方針

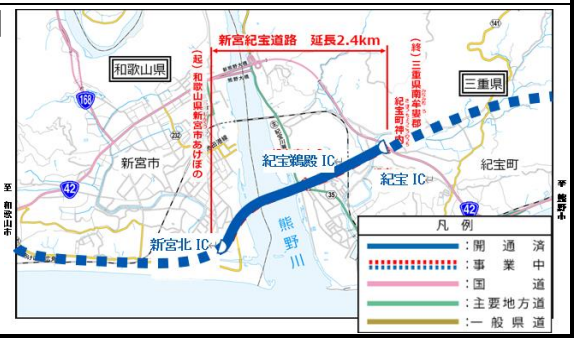
対応方針決定の理由

―

事業概要図

【位置図】

【概要図】



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率（4%）を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。
※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。（〔　〕内は社会的割引率の値）